



Title	臨床哲学のメチエ 第20号 欄外
Author(s)	
Citation	臨床哲学のメチエ. 2013, 20, p. 64-64
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24943
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

欄外

まず、ご多用中にも関わらず、臨床哲学のメチエ 20 号に寄稿していただいた皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。どうもありがとうございました。様々なバックグラウンドを持った方々が執筆してくださったお陰で、内容に広がりを持たせることができました。

編集作業をしながら、自分自身の哲学のスタイルについて考えました。汗をかき、泥だらけになり、もがきながら哲学をするスタイルがっているのかもしれない、思いはじめています。
(つじ あきのり)

今号は、復刊以来もっとも多様な実践が収録されたものになりました。寄稿していただいた皆様、貴重な実践／思考の数々を『臨床哲学のメチエ』の場で報告していただき、誠にありがとうございました。また、発行が新年度までずれこみましたことを、この場を借りてお詫びいたします。

頁数・内容ともに大幅に厚くなった『メチエ』20号をお楽しみください。
(きむ ふぁよん)

20号は期せずして三分の二もが初寄稿となりました。本号は、おなじみの哲学カフェや哲学教育だけでなく、歯医者さんでのカフェの試み、放射線問題と対話のありうべきかわり、そして絵本から臨床哲学への道が語られる「雑多な」一冊です。

また本号は同時に、東京での哲学教育、さらにはハワイでの「こどもの哲学(p4c)」の経験の記録でもあります。

今後も、関西の内外にかかわらずさまざまな展開される活動と思考を多様なままに接続していきたいと思います。次号以降の『メチエ』もどうぞよろしくお願いいたします。

(かわさき ただし)

※編集にあたって、元倫理学専修で、現在は大阪大学大学院人間科学研究科に在籍の赤阪辰太郎さんにお手伝いいただきました。この場を借りて感謝いたします。